外来語サ変動詞の文法的特徴に関する一考察

伊藤　里奈

1. はじめに

日本語学習者にとって、外来語は困難な学習課題となっている。カタカナ語（外来語）教育の実態を把握するための調査[*1]では、日本語学習者は外来語の「どんなところが難しいか」について、「発音の違い」（69.1%）、「意味推測不能」（55.7%）に続き、50.7%という全体の半数に近い回答者が「辞書不掲載」と回答しており、この結果から、日本語学習者が外来語学習を困難に感じていることのほかに、外来語学習をする際に辞書を頼りにすることができないという現状にあることがわかる。外来語の「辞書不掲載」に加えて、筆者が選定した、外来語の習得を目的とする日本語学習者用教材3冊の記述を見ると、いずれにおいてもどのような名詞や格助詞を伴うかのような具体的な文法情報の記述が不十分であることがわかった。日本語学習者が外来語を学習する際に、その語の書き方や発音は辞書や教材を使用して理解することは可能であるが、その語の文法情報を得ることができなければ、習得した外来語を運用することは困難である。このような外来語学習の現状を受けて、本稿では外来語サ変動詞[*2]の文法的特徴に着目し、日本語学習者の外来語学習に必要な文法情報を考察する。

2. 本稿における外来語サ変動詞

本稿で扱う外来語は、原語が外国語であり日本語としても使用されるようになった語で、漢語は含めず、カタカナで表記する語のみを指すこととする。本稿では外来語の動詞表現にあたる語のなかでも最も語数が多い「サ変動詞」のかたちをとって動詞化する語を対象とし、外来語サ変動詞がとる格助詞と名詞の特徴を考察していく。

3. 日本語教材と先行研究

---

*1 陣内正敬（2008）「日本語学習者のカタカナ語意識とカタカナ語教育」、『言語と文化』、11号、p. 53、表4。

*2 「サ変動詞」は「サ行変格活用動詞」のことを指す。

3-1 外来語の習得を目的とする日本語学習者用教材

序章で確認したように、日本語学習者の外来語学習を困難にする要因として「辞書不掲載」が挙げられる。本節では、外来語学習の際に日本語学習者が使用する教材にはどのような問題点があるのかを確認する。外来語の動詞に関する記述に語義や用法、典型的な文型の記述など日本語学習者にとって重要な情報が詳細に示されているかに重点を置いて教材を比較するために、カタカナの書き方や名詞・動詞を書く練習のみを扱う教材を除いて教材を選定した。選定した教材は『カタカナ語スピードマスター』[*3]、『分野別カタカナ語彙トレーニング』[*4]、『よく使うカタカナ語（アカデミック・ジャパニーズ日本語表現ハンドブックシリーズ）』[*5]の3冊である。以上の３冊を比較しながら記述内容の確認を行った結果、いずれの教材においても語義や用法、典型的な文型の記述など日本語学習者にとって重要な情報が十分に示されていないことがわかった。

この３冊のうち『よく使うカタカナ語（アカデミック・ジャパニーズ日本語表現ハンドブックシリーズ）』は他の教材と比べ語義や用法の記述が詳細に書かれている教材である。記述には英語訳[*6]、品詞、語源、類義語などのほか、使用される頻度の高い意味や用例、例文が示されているため、日本語学習者が外来語を学ぶための手がかりとなる情報が他の教材より多く掲載されている。しかし、どのような格助詞や名詞をとるかのような情報の記述は例が挙げられているにすぎない。例として以下に『よく使うカタカナ語（アカデミック・ジャパニーズ日本語表現ハンドブックシリーズ）』に掲載されている外来語「セット（する）」の記述[*7]を挙げる。

□セット＜ set ＞ 他動 名
①道具を組み立てたり、機械を使える状態にする。セッティング。[―する]

*3 棚橋明美、渡邊亜子、大場理恵子、清水知子（2009）『カタカナ語スピードマスター』、Jリサーチ出版。
*4 島野節子、世良明美、辻野裕子、妻方ひさゐ、永見洋子、山岡園枝（2010）『分野別カタカナ語彙トレーニング』、スリーエーネットワーク。
*5 佐々木瑞恵監修（2001）『よく使うカタカナ語（アカデミック・ジャパニーズ日本語表現ハンドブックシリーズ）』、アルク。
*6 韓国語訳、中国語訳は「韓国語・中国語対応　索引」として別のページ（pp. 106-117）にまとめて記述されている。
*7 『よく使うカタカナ語（アカデミック・ジャパニーズ日本語表現ハンドブックシリーズ）』、p. 47。

・ビデオカメラはもうセットしてあるよ。動

The video camera has already been set up.

・結婚パーティーのためにテーブルセッティングをしているところだ。名

I'm setting the tables right now for the wedding reception.

②映画や演劇の大道具。

③一組・一揃い。[―になる／―にする]

・ハンバーガーとフライドポテトとコーラがセットになって500円だ。名

It's 500 yen for a humburger, fries, and cola combo.

④会合の設定をする。セッティング。[―する] 類アレンジ

・うちの班が今度の会議をセットすることになった。動

It's been decided that our group will make arrangments for the next meeting.

⑤髪の毛を整える。[―する]

以上の教材の比較から、外来語の習得を目的とする日本語学習者用教材に共通する問題点は、外来語サ変動詞の語彙の記述に「どのような格助詞や名詞をとるかのような構文的特徴に関する記述がみられない」ことであると考えられる。このような問題点は序章で確認した「辞書不掲載」と同じく外来語学習を困難なものにする要因になり得る。そのため、本稿では外来語サ変動詞の文法的特徴を明らかにすることで日本語学習者の外来語学習に寄与することを目的に調査を行う。

3-2 外来語サ変動詞の構文的特徴に関する研究

日本語学習者が外来語を学習する際に重要な情報を導き出すという観点で外来語サ変動詞の構文的特徴に着目した研究に、茂木（2015）の「マークする」を対象としたものがある。茂木（2015：84-85）は『よく使うカタカナ語（アカデミック・ジャパニーズ日本語表現ハンドブックシリーズ)』には外来語サ変動詞であり多義語である「マークする」の記述にどのような名詞をとるかの情報がないことや、「目をつける」という語義の記述にのみ受身形の文型と用例が挙げられていることから、外来語研究においては意味記述だけでなく文法的側面を合わせた「意味と形式の対応関係」に関する情報を示すことが必要であるとしている。茂木（2015：93）が意味と形式の両方の側面で「マークする」を調査した結果、「意味と形には一定の対応関係がある」ことが明らかになり、意味から形、または形から意味がある程度予測できるとしている。この研究を参考に、本稿では外来語サ変動詞の個々の文法的特徴を、多義語の語については語義ごとに確認して

いく。

4. 調査方法と調査対象

4-1 調査方法

本稿では茂木（2015）と同様に、国立国語研究所が提供する「現代日本語書き言葉均衡コーパス」*8（以下、コーパス）を使用し、個々の外来語サ変動詞が実際にどのように使用されているのかを確認する。そのため調査では対象とする語がとる格助詞と名詞を数え、語義ごとに用例をみていく。語義は『日本国語大辞典　第二版』*9を参考に設定し、辞書の記述と合致しない語義をとる用例がある場合は新たに語義を設定する。コーパスでは語義が多岐にわたるものや重複している用例も該当するため、１例ずつ確認しながら分類を行った。

対象とする語がとる格助詞は、条件（キー）に「語彙素―（例：クリックする）」、前方共起に「品詞―小分類―助詞―格助詞、語彙素―（例：を）」を設定し、検索して5例以上該当した格助詞で表を作成した。１件の用例に複数回格助詞が現れた場合は、その都度数えて用例数に加えている。

対象とする語がとる名詞は、条件（キー）に「品詞―大分類―名詞」、「後方共起１に品詞―小分類―助詞 - 格助詞」、後方共起２に「語彙素―（例：クリックする）」を設定し、検索して５例以上該当した名詞で表を作成した。

4-2 調査対象

調査対象とする外来語サ変動詞は、日本語学習者が目にする機会が多いと考えられる語を選定するために、コーパスにサ変動詞として使用されている用例が収録されている数が多い外来語の上位10語を対象とした（表１）。この順位は、条件（キー）に「語種―外来語、品詞―小分類―名詞―普通名詞―サ変可能」を設定し、コーパスで外来語サ変動詞であると判断されている語を把握した後に、それらの語を一語ずつ、条件（キー）に「語彙素―（例：クリックする）」を設定して実際にサ変動詞として使用されている用例数を集計したものである。*10

---

*8 1971年から2008年までの新聞、雑誌、書籍、白書、Yahoo 知恵袋、ブログ、法律、国会会議録、広報誌、教科書、韻文から1億430万語が収録されているコーパス。（2018年現在）

*9 北原保雄（2003）『日本国語大辞典　第二版』、小学館。

*10 この検索条件では621語が外来語サ変動詞として該当し、そのうちコーパスにサ変動詞として使用されている用例がある語は530語である。該当した語がサ変動詞として使用される用例数の総数は52,225語。

表１　コーパスでサ変動詞として使用されている用例数が多い語の順位

順位	外来語	用例数
1	クリックする	6277
2	チェックする	2577
3	スタートする	1692
4	アップする	1691
5	インストールする	922
6	カットする	922
7	コピーする	905
8	イメージする	897
9	コントロールする	857
10	セットする	773

表１をみると「クリックする」や「インストールする」のほか、「コンピューターに表示されるチェックボックスをクリックして印をつける」という意味でも使用する「チェックする」、「アップロードする」の意味でも使用する「アップする」、「コンピューター内でデータを移動する」という意味でも使用する「コピーする」のようなコンピューターに関連する語の用例数が多いことがわかる。この結果は「使用される外来語は時代と共に変化していく」ことを示していると考えられる。

5. 調査結果

本章では、対象とする外来語サ変動詞がとる格助詞と名詞の調査結果からみえる文法的特徴について検討する。表は茂木（2015）を参考に５例以上現れた格助詞と名詞について書き出したものである。それぞれの調査結果に基づいて対象とする語がとる格助詞と名詞の文法的特徴を挙げていく。

5-1 対象とする語がとる格助詞と名詞

本節では、対象とする語がとる格助詞と名詞における文法的特徴を調査した。対象とする語がとる格助詞は『現代言語理論と格』[*11]を参考に分類したもので、

*11 石綿敏雄（1999）『現代言語理論と格』、ひつじ書房、pp. 134-142。

５例以上伴った格助詞、名詞についてそれぞれ表に書き出した。表に書き表した用法の表記は、ヲ格の（対象）は（動作・状態の対象）、ニ格の（相手／対象）は（動作のゆきつく相手／対象）、デ格の（場所）は（行為・イベントの場所）、カラ格の（起点）は（移動の起点）を指す。なお、ガ格のみをとるものには今回の調査では語義を設定していない。調査の結果、対象とする語がどのような格助詞、名詞をとるかに関する特徴を語義ごとに確認することができた。

5-1-1「クリックする」

「クリックする」の語義は『日本国語大辞典　第二版』では以下のように記述されていた。

> （英 click　カチリという音の意）コンピュータのマウスのボタンを、押してすぐ離す操作。アイコンやメニューを選択するときに使う。
>
> 北原保雄（2003）『日本国語大辞典　第二版』、小学館。

この記述を参考に、本稿では「クリックする」の語義を以下のように設定した。
語義：マウスのボタンを押してすぐ離す操作。
具体的には（1）のような例が該当している。

（1）縦棒タブを設定する位置をルーラー上でクリックします。　（PB20_00014）

「クリックする」がとる格助詞は表２の通りである。

表２　「クリックする」がとる格助詞

用例数	格成分		
	ヲ（対象）	デ（道具・手段）	デ（場所）
5108	4973	43	92
	97.4%	0.8％	1.8％

この他、格助詞を伴うが５例以下だった格成分には動作のゆきつく相手／場所のニ格をとる用例が１例あった。表に現れた格助詞を伴う用例には、（２）から（４）のような例が該当している。

ヲ格（動作・状態の対象）

（2）［システム環境設定］パネルから［プリントとファックス］を開き、［ファックス］タブをクリックします。　（LBtn_00003）

デ格（道具・手段）

(3)「入力」は、キーボードを打って信号を送ること、アイコンをマウスでクリックすること、ハードディスクからデータを読み込むことなどです。 (LBs5_00020)

デ格（行為・イベントの場所）

(4) 続いてシートを切り替え、図のリンク貼り付けを行いたいセルの上でクリックすれば表が貼り付けられる。 (PB2n_00008)

「クリックする」がとる格助詞において特徴的であるのは、97.4%という高い割合で対象のヲ格をとるという点である。その他には、道具・手段のデ格、行為・イベントの場所のデ格についても用例を確認することができた。

次に、「クリックする」がとる名詞を格助詞の情報と合わせてみていく。「クリックする」がとる名詞は表３の通りである。

表3 「クリックする」がとる名詞

格助詞	名詞	件数
ヲ格（対象）	ボタン	1105
	～ボタン	371
	タブ	109
	アイコン	69
	文字	51
	リンク	47
	～タブ	41
	画像	37
	URL	28
	～アイコン	28
	OK	18
	～マーク	14
	アドレス	12
	数字（1～7）	11
	マウス	10
	～ツール	9
	画面	8
	セル	8
	タイトル	6
	マーク	6
	チェックボックス	5
デ格(道具・手段)	マウス	28

今回の調査では、動作・状態の対象のヲ格と共起する名詞と道具・手段のデ格と共起する名詞が5例以上現れている。「クリックする」が動作・状態の対象のヲ格を伴う用例では「ボタン」や「アイコン」などコンピューターに表示されるものを表わす名詞を伴うことが多い。また、「マウス」は道具・手段のデ格を伴って現れているが、（５）のように動作・状態の対象のヲ格を伴って動作の対象として使用される例も確認できる。

(5) 彼はマウスをクリックし、メールを開いた。　　(LBs9_00033)

このため「クリックする」が名詞に「マウス」をとる場合は、動作を実行する対象が「マウス」である場合と「マウス」を手段としてコンピューターの画面内に表示されているものに動作を実行する場合があることがわかる。

5-1-2「チェックする」

「チェックする」の語義は『日本国語大辞典　第二版』では以下のように記述されていた。

> （英　check）①（略）*12②(―する)完全であるかどうかを一つ一つ調べること。㋐書類などを照合すること。引き合わせること。また、それが済んだことを示すしるし。「✓」印など。＊或る女（1919）〈有島武郎〉前・一〇「何か書いた物を取り出して、それを鉛筆でチェックしながら」＊われら戦友たち（1973）〈柴田翔〉四・四「外国から新しく着いた古本カタログを開いて、注文本のチェックを始めた」㋑悪い点がないかどうか、ひとりひとりについて、また、一つ一つのものについて確かめること。阻止すること。くいとめること。＊深い河（1969）〈田久保英夫〉一「石あたまの将校とは、買附け馬の検査を担当している検査将校（インスペクター）で、ときどき馬を厳しくチェックして、松岡を嘆かせる相手だ」＊祭りの場（1975）〈林京子〉「数年前、白血球が三六〇〇に減少したことがある。被爆者の定期健診でチェックされた。要精密検査、の書類が封書で届いた」
>
> 北原保雄（2003）『日本国語大辞典　第二版』、小学館。

この記述を参考に、本稿では「チェックする」の語義を以下のように設定した。
語義［１］照合が済んだものに「✓」など印を書くこと。
語義［２］悪い点がないか確かめ、阻止すること。

---

*12 ①は「小切手」とされているがサ変動詞として使用できない。このように普通名詞として使用される場合の語義が記述されている部分は今回の調査では扱わないため省略する。

語義［3］把握するために調べること。

語義［1］は『日本国語大辞典　第二版』の②、㋑に記述されている意味を参考にした。『日本国語大辞典　第二版』の㋑に記述されている内容では（6）のような「チェックボックスに印をつける」というコンピューター上の操作を表わすことに関する説明はないが、この場合の「チェックする」の用例も「印をつける」という動作に重点を置いているという点から語義［1］をとる用例に含めることにする。

（6）［親文字外へのフロー］のチェックボックスをチェックすると、ルビが親文字より長い場合、親文字の前後にルビ一文字分の空きが設定される。　（PB4n_00147）

語義［2］は『日本国語大辞典　第二版』の②、㊁の記述を参考に設定した。確かめた悪い点を阻止するという意味合いを強く持つ用例がこれに当たる。語義［2］をとる用例には（7）のような例が該当している。

（7）やはり、各省庁から独立した形で監視を行ない、さまざまな行政機関の行き過ぎをチェックするとともに、“かけ込み苦情申立”を受けつける機関は、わが国でも必要です。（LBg3_00015）

語義［3］は「チェックする」が使用されている用例に、語義［2］のように「悪い点がないか確かめ、阻止する」という意味合いではなく、（8）のように単なる「情報を得るための確認」を表わす用例がみられたため新たに設定したものである。

（8）日用品は、スーパーのチラシで特売品をチェックし 、それはもうほとんど趣味の域！？（LBn1_00014）

「チェックする」がとる格助詞は表４の通りである。

表４　「チェックする」がとる格助詞

語義	用例数	格成分			
		ヲ（対象）	ニ（相手／対象）	デ（道具・手段）	デ（場所）
［1］	149	104	30		15
		69.8％	20.1％		10.1％
［2］	728	683		36	9
		93.8％		4.9％	1.2％
［3］	260	222		19	19
		85.4％		7.3％	7.3％
合計	1137	1009	30	55	43
		88.7％	2.6％	4.8％	3.8％

この他、格助詞を伴うが５例以下だった格成分には、語義［１］の道具・手段のデ格が１例、語義［２］の範囲のデ格が１例あった。表に現れた格助詞を伴う用例には、（９）から（17）のような例が該当している。

語義［１］

ヲ格（動作・状態の対象）

（９）ネット上の問診票に当てはまる症状をチェックし送信すると、2週間以内に健康状態や問題点、改善のアドバイスなどが郵送されてくる。　（PM21_00495）

ニ格（動作のゆきつく相手／対象）

（10）「受信トレイ」等がある所の一番下の「フォルダの整理」って所をクリックして、削除したいフォルダの左側にあるチェックボックスにチェックして、画面左上の方にある「削除」を押せば削除出ると思います。　（OC02_00877）

デ格（行為・イベントの場所）

（11）「ムービー」でムービー名を確認して「アクション」で「巻き戻し」を チェックし、「OK」をクリックする。　（PB3n_00186）

語義［２］

ヲ格（動作・状態の対象）

（12）やはり、各省庁から独立した形で監視を行ない、さまざまな行政機関の行き過ぎをチェックするとともに、“かけ込み苦情申立”を受けつける機関は、わが国でも必要です。　（LBg3_00015）

デ格（道具・手段）

（13）食前は血糖値が下がっていることが多いので、糖尿試験紙でチェックすると陰性の結果が出る確率は高くなります。　（PB54_00181）

デ格（行為・イベントの場所）

（14）「昨日、トレーナーさんにマッサージしてもらって、今はだるさが出てます。でも（練習場で）打ち込むより、コースでチェックしたほうが イメージがわくから」　（PN5d_00012）

語義［３］

ヲ格（動作・状態の対象）

（15）家にはパソコンもあるが、ニュースをチェックしたり写真をプリントしたりする以外には、まだよく使いこなせない。　（OB6X_00028）

デ格（道具・手段）

（16）また、有名作家のサイン会を行われることもあるので、店頭のポスターでチェックしてみよう。　（49_00021）

デ格（行為・イベントの場所）

（17）まだ読んでいない方は本屋さんでチェックしてみて下さいｏ（＾ー＾）ｏ

（OY14_39220）

「チェックする」がとる格助詞において特徴的であるのは、「確認する」という点で意味に類似性があると考えられる語義［２］と語義［３］はとる格助詞にも類似性がみられ、「印をつける」ことに重点が置かれている語義［１］とは特徴が異なっていることである。語義［１］では動作のゆきつく相手／対象のニ格が20.1%現れているのに対し、語義［２］、語義［３］では該当する用例がなかった。この結果から、多義語である「チェックする」がとる格助詞は語義ごとに異なる特徴をもち、意味が類似している語義は特徴も類似しているといえる。

次に、「チェックする」がとる名詞を格助詞の情報と合わせてみていく。「チェックする」がとる名詞は表５の通りである。

表５　「チェックする」がとる名詞

語義	格助詞	名詞	用例数
［1］	ヲ格 (対象)	項目	6
［2］	ヲ格 (対象)	状態	15
		内容	8
		～度	8
		～具合	8
		ポイント	7
		行動	6
		データ	5
		携帯 (携帯電話)	5
		中身	5
［3］	ヲ格 (対象)	メール	9

今回の調査では語義［１］の動作・状態の対象のヲ格と共起する名詞、語義［２］の動作・状態の対象のヲ格と共起する名詞、語義［３］の動作・状態の対象のヲ格と共起する名詞が５例以上出現した。表５では「チェックする」は語義ごとに異なる名詞が共起しているが、語義［２］と語義［３］では「サイト」や「情報」など同じ名詞が動作・状態の対象のヲ格と共起する用例が何例か確認できた*13。そのため、「チェックする」がとる格助詞と同様に、意味に類似している語義［２］

*13 今回の調査では「情報」は語義［2］で2例、語義［3］で4例、「サイト」は語義［2］で2例、語義［3］で3例確認している。

と語義［３］がとる名詞にもある程度の類似性があると考えられる。

5-1-3「スタートする」

「スタートする」の語義は『日本国語大辞典　第二版』では以下のように記述されていた。

> （英　start）①（―する）出発・開始すること。＊船来語便覧（1912）＜棚橋一郎・鈴木誠一＞「スタート＜略＞」Start（英）出発、起程、著手、開始を云ふ」㋑（速さを競うスポーツで）出発すること。＊学生時代（1918）＜久米正雄＞競漕・三「久野は敵のスタートとストップの位置をもう一応確かめて」＊糞土の墻（1949）＜幸田文＞「子供らは応援団にまじって、スタートから船とともに土手を走った」＊若いセールスマンの恋（1954）＜舟橋聖一＞八・一「なかなか、スタートが揃はないらしく、発走時刻は六分もおくれてゐる」㋺（広く）物事を始めること。車などが動き始めること。＊家族会議（1935）＜大仏次郎＞群動「先生のだから頂いて、社のスタートに箔をつけたいのです。つまり先生のお力で、社が最初から認められるやうにして頂きたいのです」＊武蔵野夫人（1950）＜大岡昇平＞十四「運転手は＜略＞せかされてスタートした」㋩出発したり、始めたりするときの合図の言葉。＊いろは交遊録（1953）＜徳川夢声＞て「可笑しくて堪らないところへ〝用意〟〝スタート〟〝カチン〟とあって、正面から奉行の長谷川一夫が、悠然として現れた」
>
> 北原保雄（2003）『日本国語大辞典　第二版』、小学館。

この記述を参考に、本稿では「スタートする」の語義を以下のように設定した。
語義［１］出発すること。
語義［２］物事を始めること。
語義［１］は『日本国語大辞典　第二版』の㋑の記述を参考にした。速さを競うスポーツや、行進の場面など、ある地点から出発することを意味する用例がこれに当たる。語義［１］をとる用例には（18）のような例が該当している。

（18）７月三十日に鴨川市の海岸線をスタートしました。　（OP29_00003）

語義［2］は『日本国語大辞典　第二版』の①、㋺の記述を参考にした。語義［２］をとる用例には（19）のような例が該当している。

（19）開港記念日の6月2日から、チケット販売をスタートします。　（OP38_00001）

「スタートする」がとる格助詞は表6の通りである。

表6　「スタートする」がとる格助詞

語義	用例数	格成分			
		ヲ（出発点）	ヲ（対象）	デ（場所）	カラ（起点）
［1］	44	28			16
		63.6％			36.4％
［2］	97		80	17	
			82.5％	17.5％	
合計	125	28	80	17	16
		22.4％	64.0％	13.6%	12.8％

この他、格助詞を伴うが５例以下だった格成分には、語義［１］の行為・イベントの場所のデ格が１例、語義［２］の動作状態のゆきつく目的のニ格が１例、道具・手段のデ格が３例、目的のデ格が１例あった。表に現れた格助詞を伴う用例には、(20) から (23) のような例が該当している。

語義［1］

ヲ格（出発点）

(20) 各班十分おきにバンガローをスタートする。　(LBq7_00020)

カラ格（移動の起点）

(21) 北海道からスタートした。　(LBr7_00025)

語義［2］

ヲ格（動作・状態の対象）

(22) 朝食をしっかり食べることによって、気持ちよく一日をスタートすることができます。　(OP97_00003)

デ格（行為・イベントの場所）

(23) 第二次世界大戦末期に、アメリカ合衆国でスタートした高速航空機をテストするプロジェクトがあった。　(LBi7_00041)

「スタートする」がとる格助詞において特徴的であるのは、「出発すること」を表わす語義［１］と「物事を始めること」を表わす語義［２］の特徴が異なっている点である。語義［１］ではヲ格は動作・状態の対象ではなく出発点になり、移動の起点を表わすカラ格をとる用例が動作・状態の対象のヲ格の次に多く現れている。一方、語義［２］では動作・状態の対象のヲ格が最も多く現れている。この結果から、多義語である「スタートする」がとる格助詞は語義ごとに異なる特徴をもっているといえる。

次に、「スタートする」がとる名詞を格助詞の情報と合わせてみていく。「スタートする」がとる名詞で５例以上現れた名詞は今回の調査では該当しなかった

が、語義［１］は「ヴェルサイユ」や「パリ」など出発地点となる場所の名称をとることが多かった。語義［２］では「事業」や「～制度」のような名詞が動作・状態の対象のヲ格と共起している。この結果から、語義［１］がとる名詞は起点となる場所の名称を表わす語が多く、語義［２］がとる名詞は、始める物事の名称がヲ格と共起することが多いことがわかる。このため、「スタートする」がとる名詞は格助詞と同様に語義ごとに特徴が異なっているといえる。

5-1-4「アップする」

「アップする」の語義は『日本国語大辞典　第二版』では以下のように記述されていた。

> （英　up は「上へ」の意）①基準、水準、能率、出力、賃金などを引き上げること。また、それらが上がること。「ベースアップ」「レベルアップ」＊漫談集（1929）＜徳川夢声＞見習諸勇列伝の巻「日清談判破裂して品川乗り出すアゾマカあン時代からカチューシャ可愛いや別れのつウらアさ時代にかけて、最も女性にチミチをアップさせた色男型だ」＊軽口浮世ばなし（1977）＜藤本義一＞十二・一「書くスピードは六ヵ月単位ぐらいでアップした」②（「アップスタイル」の略）婦人の髪型の一つ。うしろ髪を上げて頭の上の方でまとめたもの。＊斜陽（1947）＜太宰治＞四「きのふはじめてアップにした私の髪をごらんになって、『アップはね、髪の毛の多いひとがするといいのよ』」＊冬枯（1965）＜庄野潤三＞三「女はオーバーを着て、髪をアップにしていた」③（「クローズアップ」の略）映画や写真の大写し。カメラを被写体にごく近づけるか、望遠レンズを用いるかして写す。＊モダン用語辞典（1930）＜喜田壮一郎＞「アップ　クローズアップ（Close-up）英を略して、ただアップと云ふ。映画での大写しのこと」＊火の鳥（1949 - 53）＜伊藤整＞三・一「あそこで、私の顔をよっぽど大きく写してるわね。ひどいアップだわ」④他人のものを盗む、巻き上げる、失敬することをいう、不良仲間などの隠語。〔特殊語百科事典（1931）〕＊明治大正見聞史（1926）＜生方敏郎＞明治時代の学生生活・二「文房具屋から鉛筆を一本アップするとか、古本屋の店から古本を一冊失敬するとか云ふに過ぎなかった」＊風（1930 - 31）＜山本有三＞一度、ただ一度、そしてただ一人の人に・四「こんな時に一つアップしてやるかな。だが本当に僕が貰ってもいいのかい」⑤ゴルフのマッチプレーで、相手より勝っているホールの数。⑥終わって、最後の点まで、すっかりの意。他の語と複合しても用いる。「ウォーミングアップ」「タイムアップ」「リストアップ」
>
> 北原保雄（2003）『日本国語大辞典　第二版』、小学館。

この記述を参考に、本稿では「アップする」の語義を以下のように設定した。
語義［１］基準、水準、能率、出力、賃金などが上がること、またはそれらを上げること。
語義［２］アップロードすること。
語義［１］は『日本国語大辞典　第二版』の①の記述を参考にした。語義［１］をとる用例には（24）のような例が該当している。

（24）とにかく、偏差値をアップする必要があるのだ。　（LBc9_00139）

語義［２］は、『日本国語大辞典　第二版』には意味の記述がされていないが、コンピューターなどでデータを転送する「アップロード」を表わす用例が多数みられたため、新たに語義を設定した。語義［２］をとる用例には（25）のような例が該当している。

（25）以前黒いトマトの記事をアップしました。　（OY05_00697）

『日本国語大辞典　第二版』に記述されているこの他の語義については今回の調査では用例を確認することができなかった。

「アップする」がとる格助詞は表７の通りである。

表７　「アップする」がとる格助詞

語義	用例数	格成分		
		ヲ（対象）	ニ（相手／対象）	デ（場所）
［1］	69	69		
		100.0％		
［2］	329	247	58	24
		75.1％	17.6％	7.3％
合計	398	316	58	24
		79.4％	14.6％	6.0％

この他、格助詞を伴うが５例以下だった格成分には、語義［１］の道具・手段のデ格が3例、語義［２］の道具・手段のデ格が２例あった。表に現れた格助詞を伴う用例には、（26）から（29）のような例が該当している。

語義［1］

ヲ格（動作・状態の対象）

（26）東と相性のいい赤と音の出るものを置いて運気をアップしましょう。

（PB21_00104）

語義［2］

ヲ格（動作・状態の対象）

（27）昨日、湘南海岸に住むブログ仲間が富士山に沈む夕陽の写真をアップしていた。（OY15_22422）

ニ格（動作のゆきつく相手／対象）

（28）ウェブ上にアップしないと、アドレスは出来ないのです。（OC02_01805）

デ格（行為・イベントの場所）

（29）天皇賞の前日予想は次の記事でアップします。（OY15_11973）

「アップする」がとる格助詞において特徴的であるのは、「基準、水準、能率、出力、賃金などが上がること、またはそれらを上げること」を表わす語義［１］と「アップロードする」ことを表わす語義［２］の特徴が異なっているという点である。語義［１］では動作・対象のヲ格をとる用例だけが現れ他の格助詞を伴う用例が表に現れていないのに対し、語義［２］では動作のゆきつく相手／対象のニ格と行為・イベントの場所のデ格をとる用例も確認できる。この結果から、多義語である「アップする」がとる格助詞は語義ごとに異なる特徴をもっているといえる。

次に、「アップする」がとる名詞を格助詞の情報と合わせてみていく。「アップする」がとる名詞は表8の通りである。

表8　「アップする」がとる名詞

語義	格助詞	名詞	用例数
［1］	ヲ格（対象）	～運	9
		～度	7
		～力	6
［2］	ヲ格（対象）	記事	36
		写真	26
		画像	25
		動画	7
	ニ格(相手／対象)	ブログ	11
		ホームページ	8
		～上	5
		記事	5

今回の調査では、語義［１］の動作・状態の対象のヲ格と共起する名詞、語義［２］の動作・状態の対象のヲ格、動作のゆきつく相手／対象のニ格がと共起する名詞が５例以上出現した。動作・状態の対象のヲ格を伴う用例をみると、語義［１］

では「～運」や「～度」、「～力」のように、能力などの値を上げることができるものを名詞としてとることが多い。一方、語義［２］では「ホームページ」や「ブログ」にアップロードすることができる「記事」や「写真」、「画像」、「動画」などの名詞をとることが多い。この結果から、「アップする」がとる名詞は格助詞と同様に語義ごとに異なる特徴をもっていると考えられる。

5-1-5「インストールする」

「インストールする」の語義は『日本国語大辞典　第二版』では以下のように記述されていた。

> （英　install「据えつける」の意）コンピュータで、ソフトウェアなどを導入・設定して実際に使えるようにすること。
>
> 北原保雄（2003）『日本国語大辞典　第二版』、小学館。

この記述を参考に、本稿では「インストールする」の語義を以下のように設定した。

語義：コンピュータでソフトウェアなどを導入・設定して実際に使えるようにすること。

具体的には（30）のような例が該当している。

（30）CD-ROM ドライブを共有すれば、ほかのパソコンの CD-ROM ドライブを使ってアプリケーションをインストールすることも可能です。　（LBq5_00009）

「インストールする」がとる格助詞は表9の通りである。

表９　「インストールする」がとる格助詞

用例数	格成分		
	ヲ（対象）	ニ（相手／対象）	デ（道具・手段）
468	380	71	17
	81.2％	15.2％	3.6％

この他、格助詞を伴うが５例以下だった格成分には、行為・イベントの場所のデ格が２例あった。表に現れた格助詞を伴う用例には、（31）から（33）のような例が該当している。

ヲ格（動作・状態の対象）

（31）アプリケーションをインストールしてゲームや機能拡張などができる。

（LBp5_00070）

ニ格（動作のゆきつく相手／対象）

（32）機能はOSにインストールしないこと。（OC02_07288）

デ格（道具・手段）

（33）一般人なモノで、そのような特殊なものを持っていなく、いつもWindows Updateでインストールしていました。（OC02_00218）

「インストールする」がとる格助詞において特徴的であるのは、81.2%という高い割合で対象のヲ格をとるという点である。その他には、動作のゆきつく相手／対象のニ格、道具・手段のデ格についても用例を確認することができた。

次に、「インストールする」がとる名詞を格助詞の情報と合わせてみていく。「インストールする」がとる名詞は表10の通りである。

表10　「インストールする」がとる名詞

格助詞	名詞	用例数
ヲ格（対象）	～ソフト	34
	ソフト	28
	ドライバ	17
	フォント	8
	アプリケーション／アプリ	6
ニ格(相手／対象)	パソコン／PC	20

今回の調査では、動作・状態の対象のヲ格と共起する名詞、動作のゆきつく相手／対象のニ格と共起する名詞が５例以上出現した。動作・状態の対象のヲ格と共起する名詞は「ソフト」や「ドライバ」など「パソコン」に導入できるものを表わす語をとることが多い。また、動作のゆきつく相手／対象のニ格をとる用例では「パソコン」を名詞としてとるものが多い。

5-1-6「カットする」

「カットする」の語義は『日本国語大辞典　第二版』では以下のように記述されていた。

> （英　cut）①（―する）一部を切り取ること。㋑映画の製作において、よくない部分を切り捨てること。削除。また、切り取られたもの。文章についてもいう。＊音引正解近代新用語辞典（1928）＜竹野長次・田中信澄＞「カット Cut 英＜略＞活動写真『フ

ィルム』検査の際その筋の命令で切りとられた部分を『カット』と云ふ」＊思ひ出（1933）＜太宰治＞三「『美貌の友』といふ翻訳本のところどころカットされて、そのブランクになってゐる箇所へ」＊火の鳥（1949-53）＜伊藤整＞五・四「撮影の小野さんは、ちゃんと考えてある。この辺でずいぶんカットしているのだろう」㊁ダイヤモンドなどの宝石を多面体に削って仕上げること。㈠髪の毛をはさみなどで切り整えること。また、その仕上がった様子。＊女面（1958）＜円地文子＞ニ「カットした軽い髪が鳥の上わ毛のように暖かく腕に触れている」㈡（給料など）当然与えられるべきものの一部を削ること。「賃金カット」②（略）③（略）*14④（―する）スポーツ用語。㈠テニス、卓球などで、球を斜めに切るように打つこと。また、野球で、打者が打ちにくい球に軽くバットを当てて意識的にファウルにすること。＊アルス新語辞典（1930）＜桃井鶴夫＞「カット 英 cut ＜略＞庭球では球をラケットで截るやうにする打法をいふ」㊁野球で、守備のとき、他の野手に送られた送球を、途中で別の野手が手元にとどめること。㈠バスケットボールで、相手のパスを横取りすること。⑤舞踏の基本の動作の一つ。上げている足を、体を支えている方の足にたたきつけるようにした瞬間、体を支えていた足を別の方向に上げること。＊青年の環（1947-71）＜野間宏＞一・色彩「優美なスライドと敏速なカットを交えた進行が再び旋回に返って行く」(略)*15　　北原保雄（2003）『日本国語大辞典　第二版』、小学館。

この記述を参考に、本稿では「カットする」の語義を以下のように設定した。

語義［１］一部を切り取ること。

語義［２］映像や音声、文章などの不要な部分を削除すること、または与えられるべきものの一部を削ること。

語義［１］は『日本国語辞典　第二版』の①の記述を参考にした。①の㈠の記述のように、髪の毛や髭などの体毛、または動物の毛をはさみなどで切ることを表わす用例もこの語義をとる用例として扱う。語義［１］をとる用例には（34）のような例が該当している。

（34）原型と同じ要領でアクリル板をカットし、直径十 cm 程度の台座用の輪を作り、ガラス板の上に置く。　　（LBtn_00005）

語義［２］には『日本国語辞典　第二版』の①、㈡と㈡の記述を参考にした。『日本国語辞典　第二版』では「映像のよくない部分を削除する」ことと「与えられ

*14 ②、③は普通名詞として使用される場合の語義が記述されている。この記述は今回の調査では扱わないため省略する。

*15 ②の補注が記述されているため、省略する。

るべきものの一部を削る」ことは分けて記述されているが、どちらも部分的に不要と判断されたものを削るという意味合いで一致しているとして、本稿では同じ語義にまとめて扱うことにする。また、辞典の㋐の記述では「映像」が削られることに意味が限定されているが、音声や台詞、文章などにおいても同じ意味で「カットする」という動詞が使用されることから、それらも踏まえて語義を設定した。語義［２］をとる用例には（35）のような例が該当している。

(35) 歳出改革で公共事業をカットしても同様だ。 （LBs3_00037）

『日本国語大辞典　第二版』に記述されているこの他の語義については今回の調査では用例を確認することができなかった。

「カットする」がとる格助詞は表11の通りである。

表11　「カットする」がとる格助詞

語義	用例数	格成分		
		ヲ（対象）	デ（道具・手段）	デ（場所）
［1］	148	124	18	6
		83.8％	12.2％	4.1％
［2］	83	83		
		100.0％		
合計	231	207	18	6
		89.6％	7.8%	2.6％

この他、格助詞を伴うが５例以下だった格成分には、語義［２］の目的のデ格が１例あった。表に現れた格助詞を伴う用例には、（36）から（39）のような例が該当している。

語義［１］

ヲ格（動作・状態の対象）

（36）縫い終わった後、余分な縫い代をカットします。 （LBq5_00018）

デ格（道具・手段）

（37）アジサイは大きな枝状の花からひと房分をハサミでカットします。 （LBr7_00053）

デ格（行為・イベントの場所）

（38）6の糸端を布の際でカットする。 （PM11_00754）

語義［2］

ヲ格（動作・状態の対象）

（39）さらに国や県も財政が厳しいので、事業に対する補助をカットする。

(OC05_03283)

「カットする」がとる格助詞において特徴的であるのは、「一部を切り取ること」を表わす語義［１］と「映像や音声、文章などの不要な部分を削除すること、または与えられるべきものの一部を削ること」を表わす語義［２］の特徴が異なっている点である。語義［１］では動作・状態の対象のヲ格の他に道具・手段のデ格の用例がみられるのに対し、語義［２］では動作・対象のヲ格以外の格助詞は表に現れていない。この結果から、「カットする」がとる格助詞は語義ごとに特徴が異なっているといえる。

次に、「カットする」がとる名詞を格助詞の情報と合わせてみていく。「カットする」がとる名詞は表12の通りである。

表12　「カットする」がとる名詞

語義	格助詞	名詞	用例数
［1］	ヲ格（対象）	髪／髪の毛	8
		皮	6
		食べ物の名称	6
		布	5
	デ格(道具・手段)	ハサミ／はさみ	8

今回の調査では、語義［１］の動作・状態の対象のヲ格、道具・手段のデ格と共起する名詞が５例以上出現した。語義［１］は動作・状態の対象のヲ格を伴う用例では「髪／髪の毛」、「皮」や「布」のほかに「キウイ」、「お肉」のように食べ物の名称を名詞としてとることが多い。語義［２］が動作・状態の対象のヲ格を伴う用例でとる名詞はいずれの語も５例以下であったため表に現れていないが「給与」、「治療費」、「賞与」などの金銭に関わる語や、「セリフ」や「シーン」など演技の演出に関わる語がみられた。この結果から、「カットする」がとる名詞は格助詞と同様に語義ごとに異なる特徴をもっているといえる。

5-1-7「コピーする」

「コピーする」の語義は『日本国語大辞典　第二版』では以下のように記述されていた。

> （英　copy）《コッピー》①美術品などの複製。また、複製すること。比喩的にも用いる。＊外山正一氏の画論を駁す（1890）＜森鴎外＞一一「複製の画はこれを　写（コ

ピイ）画といふなり」＊人間失格（1948）＜太宰治＞「夢殿観音は＜略＞磨崖仏を直立させて機械的にコピーした、というような幼稚な段階の作品ではなさそうである」（略)*16②文章の複写。また、複写すること。現在では特に複写機による複写をいうことが多い。写し。(略)*17＊残夢（1939）＜井上友一郎＞七「政治部のデスクでは、頭から受話器をスッポリ被った社員が、＜略＞大声をあげてコッピイしながら時どきこんなことを叫んだ」＊記念碑（1955）＜堀田義衛＞「タイプでコピィをとると、伊沢は自転車で外務省へ出掛けていった」③録音テープやコンピュータなどで、テープやディスクに記録された情報を別のテープやディスクに移すこと。④（略)*18

北原保雄（2003)『日本国語大辞典　第二版』、小学館。

この記述を参考に、本稿では「コピーする」の語義を以下のように設定した。

語義［１］複製すること。

語義［２］複写機で複写すること。

語義［３］コンピューターなどで、テープやディスクに記録された情報を別のテープやディスクに移すこと、またはコンピューター上の操作でデータを他の場所に移すこと。

語義［１］は『日本国語大辞典　第二版』の①の記述を参考にした。『日本国語大辞典　第二版』には記述されていないが、本稿では「既存の楽曲を同じように演奏すること」を表わす用例も、「現物に近いものを生み出す」という点では意味に共通点があると考え、同じ語義として調査する。語義［１］をとる用例には（40）のような例が該当している。

（40）ブランド品をコピーした本物そっくりの偽物は香港の特許製品です？

（OC13_02063）

語義［２］は『日本国語大辞典　第二版』の②の記述を参考にした。語義［２］をとる用例には（41）のような例が該当している。

（41）公図を渡されたら、トレースするか、閲覧室にあるコインコピー機でコピーします。

（PB13_00488）

---

*16 普通名詞として使用される場合の用例が記述されている部分は今回の調査では扱わないため省略する。

*17 普通名詞として使用される場合の用例が記述されている部分は今回の調査では扱わないため省略する。

*18 普通名詞として使用される場合の語義が記述されている部分は今回の調査では扱わないため省略する。

語義［３］は『日本国語大辞典　第二版』の③の記述を参考にした。「コンピューター上の操作でデータを他の場所に移すこと」については『日本国語大辞典　第二版』には記述されていないが、「コンピューターを使用してデータの移動をする」という意味合いでは③の記述と一致しているとして、本稿では同じ語義にまとめて扱うことにする。語義［３］をとる用例には（42）のような例が該当している。

（42）つまり、PCからiPodに音楽をコピーします。　（OC02_04633）

「コピーする」がとる格助詞は表13の通りである。

表13　「コピーする」がとる格助詞

語義	用例数	格成分		
		ヲ（対象）	ニ（相手／対象）	デ（道具・手段）
［1］	32	32		
		100.0％		
［2］	54	54		
		100.0％		
［3］	436	253	163	20
		58.0％	37.4％	4.6％
合計	522	339	163	20
		65.0％	31.2％	3.8%

この他、格助詞を伴うが５例以下だった格成分には、語義［１］の動作のゆきつく相手／場所のニ格が１例、道具・手段のデ格が２例、語義［２］の動作のゆきつく相手／対象のニ格が４例、行為・イベントの場所のデ格が３例、道具・手段のデ格が３例あった。表に現れた格助詞を伴う用例には、（43）から（47）のような例が該当している。

語義［１］

ヲ格（動作・状態の対象）

（43）ゆずの夏色をコピーするのですが、リズムが早くてストロークがうまくいきません。　（OC01_08078）

語義［２］

ヲ格（動作・状態の対象）

（44）というのも、こうした本の原稿をコピーする際に、自腹でコピー機を使用するのだが、１枚十円かかる。　（LBr3_00178）

語義［３］

ヲ格（動作・状態の対象）

（45）もちろん、音楽やアプリケーションには著作権があり、人から借りた音楽 CD やソフトをコピーして利用すると、明らかに著作権法違反になるので十分に注意して欲しい。（PB15_00071）

ニ格（動作のゆきつく相手／対象）

（46）曲をダウンロードして CD にコピーするのはどうしたらできますか？（OC02_01549）

デ格（道具・手段）

（47）そのため、CD-R でコピーしたゲームソフトをゲーム機でそのまま使用することは、不可能ということになる。（PB15_00071）

「コピーする」がとる格助詞において特徴的であるのは、「複製すること」を表わす語義［１］と「複写機で複写すること」を表わす語義［２］はとる格助詞に類似性がみられ、「データの移動」に意味の重点が置かれている語義［３］とは特徴が異なっていることである。語義［１］と語義［２］は「現物に近いものを生み出す」という点で意味に類似性があると考えられる。語義［１］、語義［２］では動作・状態の対象のヲ格が最も多く現れ、他に動作のゆきつく相手／状態のニ格と道具・手段のデ格をとる用例が何例か現れているが、語義［３］では動作・状態の対象のヲ格だけでなく行為・イベントの場所のニ格をとる用例も確認できる。この結果から、多義語である「コピーする」がとる格助詞は語義ごとに異なる特徴をもち、意味が類似している語義は特徴も類似しているといえる。

次に、「コピーする」がとる名詞を格助詞の情報と合わせてみていく。「コピーする」がとる名詞は表14の通りである。

表14　「コピーする」がとる名詞

語義	格助詞	名詞	用例数
［3］	ヲ格（対象）	ファイル	21
		データ	11
		DVD／DVD-ROM	5
		URL	5
		アドレス	5
		セル	5
	ニ格(相手／対象)	CD／CD-ROM	14
		ハードディスク	11
		パソコン／PC	10
		フロッピー／フロッピーディスク	10
		セル	9

今回の調査では、語義［３］の動作・状態の対象のヲ格と動作のゆきつく相手／対象のニ格と共起する名詞が５例以上出現した。語義［１］、語義［２］がとる名詞はいずれの語も５例以下であったため表には現れていないが、語義［１］で動作・状態の対象のヲ格と共起する語は「DNA」や「曲」のような複製、模倣の対象となるものを表わす名詞で、語義［２］で動作・状態の対象のヲ格と共起する語は「書類」や「資料」のような複写の対象となるものを表わす名詞であった。語義［３］では、動作・状態の対象のヲ格と共起する名詞は「ファイル」や「データ」などパソコン上の操作で移動できるものを表わす語をとることが多く、動作のゆきつく相手／対象のニ格と共起する名詞は「CD」や「ハードディスク」、「パソコン」のような対象が移動する場所を表わす語をとることが多い。この結果から、「コピーする」がとる格助詞の結果とは異なり、語義［１］と語義［２］がとる名詞に類似性は確認できず、３つの語義それぞれが異なる特徴を持っていることがわかる。加えて特徴的であるのは、５例以下であったため表では確認することができないが、語義［３］がとる名詞は複数の格助詞と共起する名詞が多い。表には現れていないが動作・状態の対象のヲ格と共起する「ファイル」、「データ」は動作のゆきつく相手／対象のニ格とも共起している。また、動作のゆきつく相手／対象のニ格と共起する「CD ／ CD-ROM」は道具・手段のデ格、とも共起している。

5-1-8「イメージする」

「イメージする」の語義は『日本国語大辞典　第二版』では以下のように記述されていた。

> （英　image）①（略）*19②物事について、あることから、これこれであろうと心にいだく、全体的な感じ。心像。＊若い詩人の肖像（1954-56）＜伊藤整＞三・一「上田敏や堀口大学の訳詩集から得た芸術の世界のイメージは」＊にんげん動物園（1981）＜中島梓＞二〇「狐のような、と形容すると、おおむねガリガリにやせこけた女性がイメージされるようである」（略）*20
>
> 北原保雄（2003）『日本国語大辞典　第二版』、小学館。

この記述を参考に、本稿では「イメージする」の語義を以下のように設定した。
語義：物事について、あることから、これであろうと心に抱くこと。
具体的には（48）のような例が該当している。

（48）頭の中で動きをイメージした。　（PN2g_00009）

「イメージする」がとる格助詞は表15の通りである。

表15　「イメージする」がとる名詞

用例数	格成分	
	ヲ（対象）	デ（場所）
524	515	9
	98.3%	1.7％

この他、格助詞を伴うが５例以下だった格成分には、動作のゆきつく相手／場所のニ格が１例、道具・手段のデ格が４例あった。表に現れた格助詞を伴う用例には、（49）、（50）のような例が該当している。

ヲ格（動作・状態の対象）

（49）ポストイットというと、一般の人は、よく本や資料の重要な頁に添付する付箋紙をイメージするかも知れない。　（LBf3_00101）

デ格（動作・行為の場所）

---

*19 普通名詞として使用される場合の語義が記述されている部分は今回の調査では扱わないため省略する。
*20 普通名詞として使用される場合の用例が記述されている部分は今回の調査では扱わないため省略する。

(50) 頭でイメージしながらすると良いですよ。 (OC09_03017)

「イメージする」がとる格助詞において特徴的であるのは、98.3%という高い割合で対象のヲ格をとるという点である。その他には、行為・イベントの場所のデ格についても用例を確認することができた。

次に、「イメージする」がとる名詞を格助詞の情報と合わせてみていく。「イメージする」がとる名詞は表16の通りである。

表16 「イメージする」がとる名詞

格助詞	名詞	用例数
ヲ格 (対象)	形	10
	姿	10
	動き	5

今回の調査では、語義［１］の動作・状態の対象のヲ格と共起する名詞が５例以上出現した。動作・状態の対象のヲ格と共起する名詞は「形」や「姿」、「動き」のような対象の見た目や動きを表わす語が多い。また、用例数が５例以下であったため表には現れていないが、行為・イベントの場所のデ格と共起する名詞は「頭の中」や「頭」のような思考を働かせる場所を表わす語をとる用例がみられる。

5-1-9「コントロールする」

「コントロールする」の語義は『日本国語大辞典　第二版』では以下のように記述されていた。

> （英　control）①（―する）ほうっておくと独自の動きをするものを、こちらの意思通りに動かすこと。制御。＊和漢大辞典（1919）＜大町桂月・高木斐川＞新語「コントロール　取締。支配。管理」＊伸子（1924-26）＜宮本百合子＞六・一「あのひとをコントロールできれば」＊老残（1952）＜宮地嘉六＞「ハンコを刻る仕事は＜略＞らくではない。腕に全身の力をこめて、その力を殺して細心にコントロールしなければならぬ」＊島へ（1962）＜島尾敏雄＞「自分が意識をコントロールできていたとは思えない」②球技で、自分の思う通りのコースに球を投げ分けたり蹴り分けたりする能力。制球力。(略)*21
>
> 北原保雄（2003）『日本国語大辞典　第二版』、小学館。

*21 サ変動詞として使用されている例ではないため、省略する。

この記述を参考に、本稿では「コントロールする」の語義を以下のように設定した。

語義：制御すること。

『日本国語辞典　第二版』の記述では「制御すること」と「球技で、自分の思う通りのコースに球を投げ分けたり蹴り分けたりする能力」は分けて記述されているが、どちらも思い通りに動かすという意味合いで一致しているとして、本稿では同じ語義にまとめて扱うことにする。具体的には（51）のような例が該当している。

（51）うちのホテルはね、完全に空気を空調でコントロールしているの。（OB3X_00249）

「コントロールする」がとる格助詞は表の17の通りである。

表17　「コントロールする」がとる格助詞

用例数	格成分	
	ヲ（対象）	デ（道具・手段）
494	469	25
	94.9％	5.1％

表に現れた格助詞を伴う用例には（52）、（53）のような例が該当している。

ヲ格（動作・状態の対象）

（52）やめるのは簡単だけれども、中毒症をコントロールすることはできません。

（LBk4_00005）

デ格（道具・手段）

（53）それを理性でコントロールすることが、大人になるために必要なことである。

（LBr3_00073）

「コントロールする」がとる格助詞において特徴的であるのは、94.9％という高い割合で動作・状態の対象のヲ格をとるという点である。その他には、道具・手段のデ格についても用例を確認することができた。次に、「コントロールする」がとる名詞を格助詞の情報と合わせてみていく。「コントロールする」がとる名詞は表18の通りである。

表18　「コントロールする」がとる名詞

格助詞	名詞	用例数
ヲ格 (対象)	自分	16
	感情	14
	動き	9
	スピード	6
	行動	6
	ボール	6
	血圧	5
	財政	5
	試合	5
	症状	5
	状況	5

今回の調査では、動作・状態の対象のヲ格と共起する名詞が５例以上出現した。動作・状態の対象のヲ格と共起する名詞は「自分」や「感情」、「行動」のような人や人の心、体の動きに関する語のほか、「ボール」や「試合」のようなスポーツに関する語、「血圧」や「症状」のような医療に関する語などを多くとる。用例数が5例以下であったため表には現れていないが、道具・手段のデ格では「薬」や「力」などの語をとることが確認できた。

5-1-10「セットする」

「セットする」の語義は『日本国語大辞典　第二版』では以下のように記述されていた。

> （英　set）①（略）②（略）③（略）④（略）*22⑤（―する）道具・機械などを組み立てること。あるいは食卓を用意すること。＊鉛の卵（1957）＜安部公房＞五「むろん、冬眠箱にセットされた当事の年齢です」＊新西洋事情（1975）＜深田祐介＞日本「業者思想」欧州に死す「豪華な個室に案内され、そこには昼食のセットがされているんですね」⑥（―する）髪の形を整えること。＊爬虫類（1950）＜丹波文雄＞「ツ

*22 ①、②、③、④は普通名詞として使用される場合の語義が記述されている。この記述は今回の調査では扱わないため省略する。

ル子は、神経質らしく、セットした髪は一本の毛も乱してはゐない」(略)*23
北原保雄 (2003)『日本国語大辞典　第二版』、小学館。

この記述を参考に、本稿では「セットする」の語義を以下のように設定した。
語義［１］組み立てること、または取り付けること。
語義［２］食卓や会議、会見などの用意をすること。
語義［３］髪の形を整えること。
語義［４］機械などに設定すること。
語義［１］は『日本国語大辞典　第二版』の⑤の記述を参考にした。『日本国語大辞典　第二版』には「取り付けること」という意味に関する記述はないが、(54) のような用例では「組み立てる」より「取り付ける」としたほうが適切であると考えられるため、語義に加えた。
(54) 低倍率の対物レンズをセットし、しぼりを開いておく。　(OT23_00042)
語義［２］は『日本国語大辞典　第二版』の⑤の記述を参考にした。この意味は⑤の記述では語義［１］が表わす意味と同じ項目にまとめられているが、「組み立てること」と「用意をすること」は意味が完全に一致しているとはいえない。そのため、今回の調査ではそれぞれに異なる特徴が現れることを想定して語義を分けて特徴をみることにする。また、記述には『日本国語大辞典　第二版』では「食卓を用意すること」とあるが、(55) のように会見や会議なども用意の対象と考えることができるため、食卓に限らず「用意する」という意味で使用されている用例もこの語義に分類した。
(55) 球団事務所も深夜から活動をはじめ、急遽翌日の会見をセットした。
(PM21_00435)
語義［３］は『日本国語大辞典　第二版』の⑥の記述を参考にした。語義［３］をとる用例には (56) のような例が該当している。
(56) 早起きして駅まで家人を送りましたが、美容院は何処も明かりがついていて、お客さんが髪をセットしていました。　(OY13_05411)
語義［４］には、『日本国語大辞典　第二版』には意味の記述がされていないが、留守番電話や目覚まし時計などの「機械などに設定すること」を表わす用例がみられたため、新たに語義を設定した。語義［４］をとる用例には (57) のような例が該当している。

*23 ⑥が普通名詞として使用される場合の用例と、③の補注が記述されている。この記述は今回の調査では扱わないため省略する。

（57）二人は、笑いながら、新しく留守電をセットした。　（LBj9_00097）

「セットする」がとる格助詞は表19の通りである。

表19　「セットする」がとる格助詞

語義	用例数	格成分	
		ヲ（対象）	ニ（相手／対象）
［1］	354	240	114
		67.8％	32.2％
［2］	24	24	
		100.0％	
［3］	6	6	
		100.0％	
［4］	72	58	14
		80.6％	19.4％
合計	456	328	128
		71.9％	28.1％

この他、格助詞を伴うが５例以下だった格成分には、語義［２］の動作のゆきつく相手／対象のニ格が２例、語義［３］の道具・手段のデ格が１例、行為・イベントの場所のデ格が３例あった。表に現れた格助詞を伴う用例には、（58）から（63）のような例が該当している。

語義［１］

ヲ格（動作・状態の対象）

（58）プリンターの設定と印刷可能範囲を確認したら、プリンターの電源を入れ、はがきをセットします。　（PB1n_00074）

ニ格（動作のゆきつく相手／対象）

（59）波崎は、すぐに船外機をゴムボートにセットした。　（LBk9_00203）

語義［２］

ヲ格（動作・状態の対象）

（60）球団事務所も深夜から活動をはじめ、急遽翌日の会見をセットした。　（PM21_00435）

語義［３］

ヲ格（動作・状態の対象）

（61）母もうれしげに、髪をセットして写真撮ったら～って。　（OY05_00979）

語義［４］

ヲ格（動作・状態の対象）

（62）米を洗い、炊飯器をセットし、エビの殻を剥く。　（LBo9_00153）

ニ格（動作のゆきつく相手／対象）

（63）受信ホストは、受け取ったタイムスタンプ値を ACK セグメントにセットして送信します。　（PB45_00195）

「セットする」がとる格助詞において特徴的であるのは、「組み立てること、または取り付けること」を表わす語義［１］と「機械などに設定すること」を表わす語義［４］の特徴が類似している点である。この二つの語義は意味に類似性があるとは言い切れないため、意味に類似性がない場合にもとる格助詞の特徴が類似する場合があることがわかる。

次に、「セットする」がとる名詞を格助詞の情報と合わせてみていく。「セットする」がとる名詞は表20の通りである。

表20　「セットする」がとる名詞

語義	格助詞	名詞	用例数
［1］	ヲ格 (対象)	CD ／ CD-ROM ／ CD-R	15
		原稿	13
		テープ	7
		カメラ	5
［3］	ヲ格 (対象)	髪／髪の毛	6
［4］	ヲ格 (対象)	目覚まし	7
		タイマー	6

今回の調査では、語義［１］の動作・状態の対象のヲ格、語義［３］の動作・状態の対象のヲ格、語義［４］の動作・状態の対象のヲ格と共起する名詞が５例以上出現した。語義［１］の動作・状態の対象のヲ格と共起する名詞は、「CD ／ CD-ROM ／ CD-R」、「原稿」、「テープ」、「カメラ」のような取り付けるものの名称を表わす語を多くとる。語義［２］の動作・状態の対象のヲ格と共起する名詞はいずれの語も５例以下であったため表には現れていないが、「テーブル」や「会見」、「会談」など用意するものやイベントを表わす語をとる用例を確認した。語義［３］の動作・状態の対象のヲ格と共起する用例は「髪／髪の毛」を名詞としてとることが多く、語義［４］の動作・状態の対象のヲ格と共起する名詞は「目覚まし」や「タイマー」のような設定をする対象となるものを表わす語を伴っている。この結果から、「セットする」がとる名詞は語義ごとに異なる特徴をもっているといえる。

6. おわりに

本稿では、日本語学習者が外来語を学習する際に辞書や教材から十分な文法情報を得られていないという現状を受けて、外来語サ変動詞の文法的特徴を調査した。５章では対象とする10語がとる格助詞と名詞の特徴を考察し、個々の語について語義ごとに特徴を挙げた。その結果、外来語サ変動詞の文法的特徴を挙げることで、日本語教育において、典型的な使用例を示し、その特徴を明示することが可能になったといえる。

今回の調査では外来語サ変動詞のうち10語を調査対象として文法的特徴を考察したが、調査の対象とする語を増やし、特徴的な文法情報がみられる語や、特徴が類似している語などに分類して再度検討することを今後の課題として研究を深めていきたい。

参考文献

石綿敏雄（1999）『現代言語理論と格』、ひつじ書房。
沖森卓也他（2011）『図解　日本の語彙』、三省堂。
影山太郎（1993）『文法と語形成』、文学部論叢、ひつじ書房。
澤田田津子（1993）「日本語教育のための基本外来語について」、『奈良教育大学紀要（人文・社会科学）』、42巻、１号、pp. 225-239。
陣内正敬（2008）「日本語学習者のカタカナ語意識とカタカナ語教育」、『言語と文化』、11号、pp. 47-60。
茂木俊伸（2015）「コーパスを用いた外来語サ変動詞の分析：『マークする』を例として」、『文学部論叢』、106巻、pp.83-95。
現代日本語書き言葉均衡コーパス　https://chunagon. ninjal. ac. jp/

辞典、教材類

北原保雄（2003）『日本国語大辞典　第二版』、小学館。
小泉保、船城道雄、本田晶治、仁田義雄、塚本秀樹（1989）『日本語基本動詞用法辞典』、大修館書店。
佐々木瑞恵監修（2001）『よく使うカタカナ語（アカデミック・ジャパニーズ日本語表現ハンドブックシリーズ）』、アルク。
島野節子、世良明美、辻野裕子、妻方ひさゐ、永見洋子、山岡園枝（2010）『分野別カタカナ語彙トレーニング』、スリーエーネットワーク。
棚橋明美、渡邊亜子、大場理恵子、清水知子（2009）『カタカナ語スピードマス

ター』、Jリサーチ出版。

（いとう・りな　平成27年度本学大学院人文社会科学専攻修了生）